



YA（ワイエー）コーナー



総合図書館の1階に、YA（ワイエー）コーナーという書架があるのをご存じでしょうか。各区にある分館（11館）にも、同様のコーナーがあります。

YAとは、ヤングアダルト（Young Adult）の略語です。ヤングアダルトとは、主に中学生や高校生をはじめとする10代の年齢層の子どもをさします。

皆さんもご存じの通り、この時期の子ども達は、思春期と呼ばれ、心身共に大きな変化を向かえ、感性が豊かとなる時期です。この時期に出会った人、文学や音楽、さまざまな芸術は、子どもの成長に大きく影響をあたえるものです。

そのような時期にある子ども達にとって、図書館や本の果たす役割には、大きなものがあると考えます。

2008年に、IFLA（国際図書館連盟）より出された「ヤングアダルトへの図書館サービスガイドライン」には、「図書館におけるヤングアダルトサービスの使命は、情報資源へのアクセスならびに、知的・情緒的・社会的発達のためのヤングアダルト特有のニーズに応える環境、の両方を提供することによって、個人が子どもから大人への移行に成功するように支援すること」とあります。

また、文部科学省の「第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」においては、地域（図書館）における読書活動の推進を図るために、子どもの視点に立ったYAコーナーの設置の取組の促進が記されています。

総合図書館や分館には、これからの進路や生き方、人間関係に迷った時、楽しい空想の世界や想像の世界に浸りたい時、勉強で困った時の手助けとなるように、様々なジャンルの本をたくさん用意しています。図書館が、ヤングアダルト世代にあたる子ども達にとって、素敵な本との出会いの場となることを願っています。

＜総合図書館 YA コーナーの様子＞



「おすすめの本」を紹介した
「YA 通信」等が、置いてあります。
～ YA 通信 ～
発行回数：年 4 回 + 号外 3 回

第 68 回学校読書調査

全国学校図書館協議会では、毎日新聞社と共同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を行っています。（全国の小学校 47 校 3,447 人、中学校 39 校 3,317 人、高校 42 校 4,048 人を対象）

その調査で、昨年の 5 月の平均読書冊数は、小学生は 12.6 冊（前年比 0.6 冊減）、中学生は 5.5 冊（前年比 0.8 冊増）、高校生は 1.9 冊（前年比 0.3 冊増）となり、全体的に大きな変化は見られない結果となりました。さらに、5 月の「不読者」の割合は、小学生 7%（前年比 0.6% 増）、中学生 13.1%（前年比 5.5 減）高校生 43.5%（前年比 7.6% 減）となりました。今回は、中学生と高校生の不読率の改善が注目されています。

また、今回は「学校図書館のイメージ」について調査され、小学生と共に一番多いのが「本を読むところ」で 9 割が答えています。その他、「わからないことを調べるところ」「自分で勉強するところ」「気分転換をするところ」の回答が多かったようです。

第 68 回学校読書調査において、小学校は、昨年比は減少となっておりますが、この 30 年で、各校種とも「読んだ本の冊数」は、確実に増えてきています。小学校においては、2 倍近くの増加です。（6.4 冊→12.6 冊）また、学年が上がるほど、冊数は減少していますが、学年が上がるほど、読む本のページ数が増えていることも考えられます。今後も、読書の量と質を考えながら子どもの読書活動の推進に努めたいものです。

また、学校図書館のイメージ調査から、学校図書館の 3 つの機能（読書、情報、学習センター）の定着が少しずつですが、進んでいることが伺えます。

＜須藤＞



3月のことと人

3.3 耳の日

日本耳鼻咽喉科学会が1956年に制定。日付は語呂合わせから。またこの日は、三重苦であったヘレン・ケラーのもとにサリバン先生が初めて訪れた日であり、電話の発明者アレクサンダー・グラハム・ベルの誕生日でもある。

3.5 啓蟄(けいちつ)

「啓蟄」の日付は、年によって異なる。今年は、3月5日(火)である。大地が温まり、冬眠をしていた地中の虫が春の陽気に誘われて穴から出てくる頃「啓蟄」とされる。「啓蟄」の「啓」には「ひらく、開放する」の意味がある。

芥川 龍之介 (1892.3.1~1927.7.24)

東京都生まれ。1915年(大正4年)10月、代表作の1つとなる『羅生門』を「芥川龍之介」名で『帝国文学』に発表。「鼻」「地獄変」「杜子春」「河童」「歯車」など、著名な作品を数多く残している。

いぬい とみこ (1924.3.3~2002.1.16)

静岡県生まれ。1954年「ツグミ」で児童文学者協会新人賞受賞。1964年「北極のムーシカミーシカ」で第5回国際アンデルセン賞佳作賞受賞。「きんいろのカラス」「トビウオのぼうやはびょうきです」など、多数の作品を残している。

石井 桃子 (1907.3.10~2008.4.2)

埼玉県生まれ。1「くまのプーさん」「ピーターラビットのおはなし」といった数々の欧米の児童文学の翻訳を行う一方、絵本や児童文学作品の創作も行い、日本の児童文学普及に貢献した。「ノンちゃん雲に乗る」「山のトムさん」などの作品を残している。

かこ さとし (1926.3.31~2018.5.2)

福井県生まれ。日本の絵本作家、児童文者、工学博士、技術士(化学)。本名は中島 哲(さとし)ペンネームの「里子」は俳号である。「だるまちゃん」シリーズや「からすのパンやさん」シリーズ等が、有名である。

図書館員のひみつの本棚 第 214回

今月は、いちごの美味しい季節に読みたい絵本をご紹介します。

『いちごハウスのおくりもの』

村中 李衣／作 えがしら みちこ／絵 世界文化ブックス 2022年 ¥1200(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★★ 小低学年★★☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

ひまりちゃんのおじいちゃんは、ハウスでいちごを栽培しています。それがひまりちゃんには自慢で、いちご作りのお手伝いもたくさんしています。でも、ある日、遊びに来たお友達が、ハウスにいたミツバチを怖がって帰ってしまいました。悲しくなったひまりちゃんは、ミツバチも、ミツバチの味方をするおじいちゃんも嫌い！とお手伝いをしなくなってしまう…

えがしらみちこさんのやわらかな絵が物語にぴったりな、ほんわかとしたやさしい絵本です。ひまりちゃんの物語を楽しみながら、いちご栽培や、いちごの育ち方も自然と知ることができます。

<子どもに手渡す時のポイント>

表紙のいちごがまず目を引き、読み聞かせにも向いています。いちごの季節にぜひ読んであげてください。

巻末に、いちごができるまでの解説も簡単についています。野菜・果物や植物の生育などに興味を持ったら、今度は、図書館の図書ラベルにある分類番号「62」(園芸など)のところに案内してあげてください。育ち方や栽培方法に関する本があります。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。